

応用生態工学会 第9回総会資料

開催日時：2005年（平成17年）9月30日（金）10:30～
会 場：科学技術館（サイエンスホール）

- 資料 - 1 第9回総会議事次第
- 資料 - 2 一般経過報告
- 資料 - 3 会員状況報告
- 資料 - 4 2004年度（平成16年度）事業報告
- 資料 - 5 総会・理事会・幹事会・委員会報告
- 資料 - 6 会誌「応用生態工学」編集報告
- 資料 - 7 2004年度（平成16年度）決算報告
- 資料 - 8 2004年度（平成16年度）監査報告
- 資料 - 9 2005年度（平成17年度）事業計画
- 資料 - 10 2005年度（平成17年度）予算案
- 資料 - 11 規約改正
- 資料 - 12 役員改選

< 添付資料 >

- ・ 役員名簿（第4期）
- ・ 規約
- ・ 投稿規程
- ・ 校閲規程

応用生態工学会 第9回総会議事次第

開場（受付開始）

1．開会 [司会：事務局長島崎由美]

2．総会議長選出

3．会長挨拶 [会長：廣瀬 利雄]

4．議事開始 議長： .

1）報告事項

平成16年度事業報告 [幹事長：角野 康郎]

(1) 一般経過報告（資料-2）

(2) 会員状況報告（資料-3）

(3) 事業報告（資料-4）

(4) 総会・理事会・幹事会・委員会報告（資料-5）

(5) 会誌「応用生態工学」編集報告（資料-6）

2）審議事項

(1)第1号議案 平成16年度決算報告 [幹事長：角野 康郎]

決算報告（資料-7）

監査報告（資料-8） [監事：]

(2)第2号議案 平成17年度事業計画（案）（資料-9）[幹事長：角野 康郎]

(3)第3号議案 平成17年度予算（案）（資料-10）

(4)第4号議案 規約の改正（資料-11） [会長：廣瀬 利雄]

(5)第5号議案 役員改選（資料-12） [会長：廣瀬 利雄]

会長

副会長

理事

幹事

監事

5．総会終了

一般経過報告

2004年度(平成16年度:2004年4月1日~2005年3月31日)併せて、2006年度(平成17年度:2005年4月1日~)の現在までの応用生態工学会の一般経過を以下に報告する。

2004年度(平成16年度)応用生態工学会一般経過報告

2004年(平成16年)

- 4.1 平成16年度開始
- 4.1 交流委員会・将来構想委員会・研究開発委員会合同委員会
- 4.12 新事務局長着任
- 4.13 第1回中国現地ワークショップ in 広島 に関する打ち合わせ(第3回)(広島大学)
- 4.14 円山川セミナーに関する打ち合わせ(近畿地方整備局)
- 4.20 会誌「応用生態工学」6巻2号発送
- 4.21 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第2回矢作川に関する実行委員会(名古屋大学)
- 5.14 円山川セミナーに関する実行委員会(第1回)(近畿地方整備局)
- 5.22-23 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第2回矢作川 講師:辻本哲朗講師 27名参加(他実行委員16名)
- 5.28 ニュースレター25号発行(委員会報告、日韓河川生態セミナー案内、国際交流海外学校等派遣者募集)
- 6.2 円山川セミナーに関する実行委員会(第2回)(兵庫県立人と自然の博物館)
- 6.5-6 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第3回標津川 講師:中村太士講師
- 6.12 第25回理事会(FUKAZAWA)
- 6.17 北陸ワークショップ企画打ち合わせ(新潟大学・北陸地方整備局)
- 6.18 後援行事:公開シンポジウム「自然再生をめぐる学術と技術の展望」主催:日本学術会議森林工学研究連絡委員会
- 6.29 円山川セミナーに関する実行委員会(第3回)(近畿地方整備局)
- 6.30 2004年度国際交流海外学会等への派遣者募集締切
- 7.2 中国ワークショップ in 広島に関する打ち合わせ(第4回)(広島大学)
- 7.3-4 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第4回諏訪湖 講師:沖野外輝夫講師
- 7.5 ニュースレターNo.26発行(第8回大会案内、投稿規定改訂、5カ年計画総括、次期中期計画)
- 7.9 北陸ワークショップに関する打ち合わせ(第2回)(新潟大学)
- 7.22-23 第1回中国現地ワークショップ in 広島 (参加者 現地見学会81名,ワークショップ220名)(太田川流域および広島市・広島アステールプラザ)
- 8.7 共催行事:シンポジウム「兵庫県の河川自然再生 コウノトリの舞う郷へ」(参加者 233名)(三田市・兵庫県立人と自然の博物館ホロンピアホール)
- 8.8 現地見学会「豊岡・円山川の自然再生」62名参加(豊岡市内)
- 8.8 後援行事:「円山川の自然再生に関するフォーラム」(豊岡市民プラザ多目的ホール)
- 8.20 交流委員会 2004年度国際交流海外学会等への派遣者決定(3名)
- 8.26 第8回研究発表会プログラム検討会議(麴町会議室)
第8回大会第1回実行委員会(麴町会議室)
- 8.31 会誌「応用生態工学」7巻1号発行
- 9.8 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第5回木津川に関する打ち合わせ(奈良女子大学)
- 9.11 第26回理事会(弘済会館)
- 9.27 第8回大会第2回実行委員会(麴町会議室)
- 10.1-3 第8回大会(総会、研究発表会等)開催(東京北の丸公園科学技術館)
- 10.1 第8回総会
- 10.1 公開シンポジウム「人為改変された河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント」韓国:ユン・ビュンマン教授(明知大学),ジョー・ゲージャエ助教授(釜山大学)ほか(参加者191名)
- 10.2-3 第8回研究発表会(参加者225名)
- 10.2 幹事会
- 10.2 拡大編集委員会
- 10.13 東北ワークショップ(in郡山)実行委員会(仙台)

- 10.15 矢作川・三河湾接点領域現地ワークショップ実行委員会（名古屋市・名古屋大学）
- 10.18 北陸ワークショップ実行委員会（新潟市）
- 10.22-23 矢作川・三河湾接点領域現地ワークショップ（参加者 57名）（矢作川・三河湾沿岸および吉良温泉）
- 11.1-2 東北ワークショップ（in 郡山）郡山商工会議所（参加者 WS78名、現地35名）（郡山市および三春ダム）
- 11.12 ニュースレター27号発行（海外派遣報告、理事会・幹事会等報告など）
- 11.20-21 北陸ワークショップ（in 新潟）新潟ユニゾンプラザ（参加者 現地48名,WS181名）（信濃川下流域・福島潟および新潟市）
- 11.20-21 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第6回「干拓淡水化事業中止後の宍道湖・中海のランドデザイン」（島根県宍道湖・中海）講師：国井秀伸（島根大学汽水域研究センター）
- 11.27-28 シリーズ講習会「水域生態系保全 - ・現地説明会」第5回「河川環境の生物的・生息場所的評価の手法と展開」（京都府木津川）講師：谷田一三（大阪府立大学総合科学部自然環境科学科）
- 台風22号により延期（参加者13名）
- 12.1 事務局事務所賃貸契約更新（2年間）
- 12.4 第27回理事会（麹町会議室）
- 12.24 日本学会議会員候補者情報提供資料提出

2005年（平成17年）

- 1.20 交流委員会主催行事：沿岸の自然再生に関する特別セミナー「米国におけるチェサピーク湾再生の歴史と展望」（東京大学駒場キャンパス）（参加者約30名）
- 1.20 円山川自然再生フォーラム実行委員会（大阪市・近畿地方整備局）
- 1.29-30 共催行事：国際セミナー「美しく豊かな水環境を後世に - 島根とテキサスのパートナーシップ -」（松江市・くにびきメッセ）
- 1.30 河川環境管理財団 平成17年度河川整備基金助成申請
- 1.31 会誌「応用生態工学」7巻2号発行「標津川再生事業特集」
- 1.31 英文誌購読者募集案内発送
- 2.12 後援行事：沿岸環境関連学会連絡協議会 第12回ジョイント・シンポジウム「内湾河口漁場の崩壊過程 その検証を予防と再生に活かす」（東京大学駒場キャンパス学際交流ホール）
- 2.17 円山川自然再生フォーラム「トキとコウノトリ 野生復帰への挑戦」（参加者380名）（三田市・兵庫県立人と自然の博物館ホロンピアホール）
- 2.21 ニュースレター28号発行（今年度各行事報告）：会費支払のお願いを同封
- 3.18 第9回大会公開シンポジウム打ち合わせ（谷田副会長）（東京・財）ダム水源地環境整備センター会議室）
- 3.22 第2回中国現地ワークショップ in 山口 第1回実行委員会（宇部市・山口大学）

2005 年度（平成 17 年度）応用生態工学会一般経過報告

2005 年（平成 17 年）

- 4.1 平成 17 年度開始
- 4.4 小宮山会計事務所打合せ（事務局）
- 4.8 第 4 回北陸現地ワークショップ in 金沢第 1 回実行委員会（金沢河川国道事務所）
- 4.15 第 9 回河川環境目標検討委員会（事務局）（財）リバーフロント整備センター）
- 4.20 会誌編集委員会（麹町会議室）
- 4.21 普及委員会（麹町会議室）
- 5.14 第 28 回理事会（弘済会館）
- 5.15 国際英文誌編集委員会代理出席（東京大学農学部）
- 5.20 ニュースレター29号発行
- 5.27 平成 17 年度河川整備基金助成決定通知
- 6.7 共催行事：ワークショップ「河川環境目標への科学的アプローチは可能か - 考え方と実際 - 」
- 6.22 第 10 回河川環境目標検討委員会（事務局）（財）リバーフロント整備センター）
- 6.30 平成 16 年度河川整備基金助成事業報告書提出及び平成 17 年度助成請書提出
- 7.2 国際英文誌編集委員会兼 2006 ICLEE Conference 第 1 回実行委員会出席（京都大学農学部）
- 7.5 第 9 回大会実行委員会（第 1 回）（麹町会議室）
- 7.20 ニュースレターNo.30 発行（第 9 回大会案内）
研究発表（口頭・ポスター）募集開始
- 7 月 会長・副会長候補届出期間
- 7.19-20 応用生態工学会札幌主催「溪流・河川横断構造物の切り下げセミナー」（参加者 67 名）（北海道室蘭市・八雲町ほか）
- 7.21 後援行事：土砂管理とダムに関する国際シンポジウム第 1 回実行委員会出席（（社）日本ダム会議）
- 7.21 交流委員会（麹町会議室）
- 7.25-26 共催行事：第 3 回日韓河川生態セミナー（参加者日本側 30 名，韓国側 38 名）（名古屋大学・長良川・木曾川）
- 8.8 会誌「応用生態工学」8 巻 1 号発行 特集：森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生
- 8.16-8.30 編集委員会メール会議実施
- 8.25 応用生態工学会札幌主催「溪流・河川横断構造物の切り下げセミナー・パート 」（参加者 104 名）（札幌市）
- 8.25 農業土木工学会農業生態工学分科会会議出席（岐阜大学）
- 8.26-27 中国現地ワークショップ（in 山口）（参加者 現地見学会 42 名，ワークショップ 141 名）
- 8.28 後援行事：シンポジウム「鳥類を蘇らせる方法」（兵庫県立人と自然の博物館）
- 9.10 第 29 回理事会
- 9.30-10.2 第 9 回大会（総会、研究発表会等）開催（東京北の丸公園科学技術館）

（以下、今後の予定）

- 9.30 総会，第 30 回理事会，公開シンポジウム（河川整備基金助成事業）
- 10.1 研究発表会，ミニシンポジウム
- 10.1 幹事会
- 10.2 研究発表会，表彰式
- 11 月 ニュースレター31号発行
- 11.11-12 北陸ワークショップ（in 金沢）金沢市観光会館
- 11 月 東北ワークショップ
- 12 月 第 31 回理事会（第 10 回大会関連）
- 12 月 会誌「応用生態工学」8 巻 2 号発行予定
- 2 月 ニュースレター32号発行（2007 年度会費請求同封）

会員状況報告(2005.9.10 現在)

入会者

正・学生会員

1997 年度入会 No.1001 ~ 1048 (48 名)
No.7001 ~ 7692(欠番 1、691 名)

1998 年度入会 No.8001 ~ 8171 (171 名)

1999 年度入会 No.9001 ~ 9101 (101 名)

2000 年度入会 No.20001 ~ 20123(123 名)

2001 年度入会 No.21001 ~ 21108(108 名)

2002 年度入会 No.22001 ~ 22121(121 名)

2003 年度入会 No.23001 ~ 22128(欠番 1, 127 名)

2004 年度入会 No.24001 ~ 24118 (118 名)

2005 年度入会 No.25001 ~ 25062 (62 名)

計 1,670 名

賛助会員

No.101 ~ 156(56 法人)

No.157 ~ 160(4 法人)

No.161 ~ 163(3 法人)

(無し)

No.164 ~ 165(2 法人)

No.166(1 法人)

(無し)

No.167 ~ 170 (4 法人)

No.171 (1 法人)

計 71 法人

退会者

正・学生会員

1997 年度: 正・学生会員 3 名

1998 年度: 正・学生会員 8 名

1999 年度: 正・学生会員 62 名

2000 年度: 正・学生会員 81 名

2001 年度: 正・学生会員 42 名

2002 年度: 正・学生会員 62 名

2003 年度: 正・学生会員 92 名

2004 年度: 正・学生会員 102 名

2005 年度: 正・学生会員 22 名

計 474 名

賛助会員

賛助会員 3 法人

賛助会員 1 法人

賛助会員 2 法人

賛助会員 5 法人

賛助会員 4 法人

賛助会員 2 法人

賛助会員 1 法人

賛助会員 1 法人

計 19 法人

2004 年度末現在の会員数

正・学生・名誉会員 1,156 名 賛助会員 52 法人 (81 口)

2005 年 9 月 10 日現在の会員数

正・学生・名誉会員 1,196 名 賛助会員 52 法人(81 口)

1 口:34 法人

2 口:10 法人

3 口:9 法人

(なお、年会費を 2ヶ年滞納し、2005 年度年会費を振り込んでいないものは、退会手続きを、第 9 回大会後に行う。)

国際英文誌購読会員数

平成 16 年度末時点 92 名

平成 17 年 9 月 10 日現在 109 名

2004 年度(平成 16 年度)事業報告

2004 年度は、事業計画に基づき、会誌の発行、ニュースレターの発行、講座等の開催、第 8 回大会(科学技術館サイエンスホール)開催、3 名の海外派遣、河川整備基金 150 万円の助成を受け第 8 回大会において公開シンポジウム「河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦」を開催し、韓国のユン・ビュンマン教授(ミョンギ大学)およびジョー・ゲージャエ教授(国立プサン大学)を招いての講演を行った。地域組織としては「応用生態工学会札幌」「同仙台」「同東京」「同名古屋」「同大阪」「同福岡」が引き続き各地での拠点として活動を行ったことに加え、「応用生態工学会広島」が発足した。

1. 会誌の発行

7 巻 1 号(2004 年 8 月発行): 特集「標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価」

7 巻 2 号(2005 年 1 月発行)

2. ニュースレターの発行

- ・ No.25(2004 年 5 月 28 日発行) 委員会報告、海外派遣申込締め切り、日韓河川生態セミナー案内、その他行事案内
- ・ No.26(2004 年 7 月 5 日発行) 第 25 回理事会報告、5 力年計画総括報告および次期中期計画、第 8 回大会開催案内、投稿規程改訂、現地セミナー(シリーズ講習会: 矢作川)開催報告、その他行事案内
- ・ No.27(2004 年 11 月 12 日発行) 第 8 回総会報告、発表賞(ポスター賞・口頭発表賞)、第 26 回理事会報告、幹事会報告、交流委員会報告、会誌編集委員会報告、海外派遣報告、共同英文誌発刊について、韓日合同セミナー報告、中国現地ワークショップ in 広島報告等
- ・ No.28(2005 年 2 月 21 日発行) 共同国際英文誌購読者募集、第 9 回大会日程決定、第 27 回理事会報告、行事報告(東北ワークショップ in 郡山、北陸ワークショップ in 新潟、矢作川・三河湾接点領域現地ワークショップ、シリーズ講習会: 木津川)等

3. シンポジウム等の開催

下記 8 行事を開催した。各地域における開催活動が活発に進められた。

普及委員会・応用生態工学研究会広島「水系環境の保全と創造 - 自然再生に向けて - 」7/22~23。

延べ 300 名参加(現地及び広島アステールプラザ)

普及委員会・応用生態工学会大阪「兵庫県の河川自然再生 コウノトリノ舞う郷へ: シンポジウム 川の自然再生を考える, 現地見学会」8/7~8。延べ 297 名参加(兵庫県立人と自然の博物館 および豊岡市内円山川流域)

第 8 回大会開催(東京千代田区、科学技術館サイエンスホール他) 258 名参加

2004 年 10 月 1 日(金) 第 8 回総会

公開シンポジウム「河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦」

懇親会

2004 年 10 月 2 日(土) 第 8 回研究発表会

2004 年 10 月 3 日(日) 第 8 回研究発表会(つづき)

表彰式

交流委員会・応用生態工学会名古屋「矢作川・三河湾 接点領域現地ワークショップ」10/22-23。

57名参加（現地および吉良町丸十ホテル）

東北ワークショップ in 郡山「水環境と生物多様性の持続的な管理 東北の事例から考える」11/1～2。111名参加（現地および郡山市商工会議所会館）

北陸ワークショップ in 新潟「平野の環境保全 水辺と水田の環境保全と再生」11/20～21。181名参加。（現地及び富山市安田生命ホール）

沿岸の自然再生に関する特別セミナー「米国におけるチェサピーク湾再生の歴史と展望」1/20。28名参加（東京大学駒場キャンパス）

円山川自然再生フォーラム「トキとコウノトリ、野生復帰への挑戦」2/17。380名参加（兵庫県人と自然の博物館ホロンピアホール）

4. 国際交流

2004年5月に募集を開始し、8名の応募があった。8月に下記のとおりオーストラリアに派遣した。

(1)（派遣先）Societas Internationalis Limnologiae XXIX / 第29回国際陸水学会（2004年8月8日から14日まで）フィンランド、ラハティ

（派遣研究員）2名 渡航費として2名合計20万円を助成

(2)（派遣先）第5回エコハイドロリクスシンポジウム

（派遣研究員）1名 渡航費として10万円を助成

5. 公開シンポジウムの開催

国際交流の一環として、2000年度を初回として海外の有識者を招き、日本の研究者・実務者との討議を行う公開シンポジウムを、2004年度も第5回として実施した。河川整備基金については、2004年度は、前年に引き続き「応用生態工学の国際的ネットワークの構築(その5)」として申請し、2004年5月29日付けで、150万円の助成が決定された。

10月1日の第8回大会時に、公開シンポジウム『河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦』を一般公開として開催した。今回は、韓国のユン・ビュンマン教授（ミョンギ大学）およびジョー・ゲージャエ教授（国立プサン大学）を招聘した。

6. 共催・後援

関連する以下の行事等を共催または後援した。

（共催：水環境学会九州支部）シリーズ講習会「水域生態系保全 - 現地説明会」全6回。合計110名参加

（後援）「公開シンポジウム：自然再生をめぐる学術と技術の展望」主催：日本学術会議森林工学研究連絡委員会。6/18。東京日本学術会議講堂。

（後援）日韓合同セミナー「Ecohydraulics and Ecological Process Principle, Practice, and Evaluation」7/4～6。日本側10名参加。韓国・ソウル。

（共催：国際セミナーTWP 実行委員会・島根大学汽水域重点プロジェクト・島根大学汽水域研究センター・(財)しまね産業振興財団)国際セミナー「美しく豊かな水環境を後世に - 島根とテキサスのパートナーシップ -」1/29-30。松江市くにびきメッセ。

（後援）沿岸環境関連学会連絡協議会 第12回ジョイント・シンポジウム「内湾河口漁場の崩壊過程 その検証を予防と再生に活かす」主催：沿岸環境関連学会連絡協議会。2/12。東京大学学際交流ホール。

総会・理事会・幹事会報告

1) 総会

- 2004年10月1日(金)10:30-11:20 科学技術館サイエンスホール
内容はニュースレター27号に掲載

2) 理事会

- 第25回 2004年6月12(土)15:00-17:00 F U K A Z A W A
内容はニュースレター26号に掲載
- 第26回 2004年9月11日(土)15:00-17:30 弘済会館
内容はニュースレター27号に掲載
- 第27回 2004年12月4日(土)14:00-16:30
内容はニュースレター28号に掲載

3) 幹事会

- 2004年10月2日(土)12:10-13:00 科学技術館サイエンスホール第一控え室
内容はニュースレター27号に掲載

委員会報告

1) 将来構想委員会・交流委員会・研究開発委員会合同委員会

- 2004年4月1日(木)14:00-17:00 弘済会館
内容はニュースレター25号に掲載。

2) 編集委員会

- 2004年10月2日(土)18:30-20:30 科学技術館サイエンスホール第一控え室
内容はニュースレター27号に掲載

3) 交流委員会

- 2004年8月20日(金)15:00-17:00 麹町会議室
内容はニュースレター27号に掲載

会誌「応用生態工学」編集報告

2005年9月2日現在

1) 会誌発行状況

- 1 巻1号:平成10年11月30日発行
 2 巻1号:平成11年5月31日発行 特集「河川の自然復元」
 2 巻2号:平成11年11月19日発行 特集「ダム構造物の影響」
 3 巻1号:平成12年7月21日発行 特集「日本の沿岸環境保全」
 3 巻2号:平成12年12月21日発行 特集「魚道の機能評価」
 4 巻1号:平成13年7月17日発行 ミニ特集「健全な河川とは?」
 4 巻2号:平成13年12月27日発行
 5 巻1号:平成14年8月10日発行 特集「長良川河口堰の影響に関するモニタリング評価」
 5 巻2号:平成15年2月28日発行 特集「河川環境の保全と復元」
 6 巻1号:平成15年8月31日発行 特集「東アジア太平洋地域の河川復元に向けて」
 6 巻2号:平成16年3月31日発行 小特集「河川・都市における外来種問題とその対策」

- 7 巻1号:平成16年8月30日発行
 7 巻2号:平成17年1月30日発行 特集「標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価」
 ・ 7 巻1号内容
 掲載論文数 10本(105頁) (原著5、事例研究2、短報1、意見2)
 ・ 7 巻2号内容
 掲載論文数 10本(101頁) (原著5、事例研究2、総説1、序文1、意見1)

- 8 巻1号:平成17年8月8日発行 特集「森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生」
 ・ 8 巻1号内容
 掲載論文数 7本(110頁) (原著2、事例研究1、総説4、その他書評3、トピックス1)
 8 巻2号 (予定)
 特集「野生生物の生息適地推定と保全計画」(仮題)
 特集担当編集委員: 鎌田磨人
 以降の予定
 特集「実用を目的とした水域の生態モデルとその実用化の現状と今後の展望」(仮題)
 特集担当編集委員: 浅枝 隆

2) 論文投稿状況(2005年8月31日現在)

年	総数	受理数	却下数	校閲中数	(英文,和文)
1998	19	18	1	0	(1,17)
1999	25	24	1	0	(2,22)
2000	34	30	2	0	(0,34)
2001	34	27	7	0	(2,32)
2002	24	17	7	0	(6,18)
2003	27	21	6	0	(4,23)
2004	25	22	2	1	(2,18)
2005	28	5	3	19	(1,27)

(註:却下数にはc判定で未投稿を含む)

3) その他編集委員会報告

- ・ 投稿規程の改訂
 - 新投稿規程は8巻1号に掲載
 - 改訂のポイント
 - 2005/7/20 (ニュースレター30号掲載)
 - ・ 報文種類にトピックスを加えた。
 - ・ その他連動して校閲規程等を改訂(2005/9/10 理事会承認)
 - 改訂後の規程は添付資料に掲載

平成16年度決算報告

(1) 平成16年度 収支報告書

(自平成16年(2004年)4月1日 至平成17年(2005年)3月31日)

(収入の部)

(単位:円)

科 目	平成16年度 予算額(A)	平成16年度 実績(B)	増減の対比 (A)-(B)	備考
1. 会費収入	13,235,000	14,828,190	1,593,190	
(1)正会員	5,595,000	5,914,740	319,740	
(2)学生会員	140,000	114,500	25,500	
(3)賛助会員	7,500,000	8,798,950	1,298,950	
(4)賛助入会金	0	0	0	
2. 雑収入	460,000	1,617,734	1,157,734	
(1)会誌編集収入	300,000	493,200	193,200	別刷代
(2)広告収入	0	159,475	159,475	
(3)受取利息等	0	25	25	
(4)その他	160,000	124,204	35,796	
(5)LEE広告掲載費		179,330	179,330	
(6)LEE年間購読料		661,500	661,500	
3. 事業収入	4,600,000	6,005,240	1,405,240	
(1)行事(大会)	1,800,000	1,806,900	6,900	大会
(2)行事1	600,000	1,070,500	470,500	中国ワークショップ
(3)行事2	400,000	324,980	75,020	豊岡現地見学会
(4)行事3	500,000	782,000	282,000	北陸ワークショップ
(5)行事4	600,000	722,000	122,000	矢作川ワークショップ
(6)行事5		419,000	419,000	東北ワークショップ
(8)会誌団体購読収入	100,000	120,000	20,000	
(9)会誌販売	600,000	752,360	152,360	
(10)その他事業収入	0	7,500	7,500	
4. 助成金	1,500,000	1,500,000	0	
河川整備基金	1,500,000	1,500,000	0	
本年度収入合計	19,795,000	23,951,164	4,156,164	
前年度繰越収支差額	11,763,763	11,763,763	0	
収入合計	31,558,763	35,714,927	4,156,164	

(支出の部)

(単位:円)

科 目	平成16年度 予算額(A)	平成16年度 実績額(B)	増減の対比 (A)-(B)	備考
1. 管理費	16,195,000	14,115,117	2,079,883	
イ. 諸経費	5,895,000	4,969,095	925,905	
(1)家賃・水道光熱費	1,680,000	1,686,193	6,193	
(2)リース料	360,000	413,070	53,070	
(3)通信費	650,000	474,270	175,730	
(3-1)一般電話	[150,000]	[91,393]	[58,607]	
(3-2)メール・HP	[200,000]	[145,973]	[54,027]	
(3-3)郵送・宅配等	[300,000]	[140,818]	[159,182]	
(3-4)IP電話		[96,086]	[96,086]	
(4)旅費交通費	720,000	405,853	314,147	
(5)文具消耗品費	800,000	629,853	170,147	
(6)事務局給与	900,000	738,942	161,058	
(7)顧問料	500,000	467,500	32,500	
(8)支払手数料	50,000	30,304	19,696	
(9)図書費・会費	65,000	7,636	57,364	
(10)租税公課	70,000	70,000	0	
(11)雑費	100,000	45,474	54,526	
ロ. 会誌編集費	6,100,000	5,865,458	234,542	
(1)会誌編集費	5,300,000	4,246,362	1,053,638	
(1-1)印刷費	[3,500,000]	[2,580,920]	[919,080]	
(1-2)別刷印刷費	[250,000]	[280,402]	[30,402]	
(1-3)郵送費	[450,000]	[508,850]	[58,850]	
(1-4)委員会費	[500,000]	[228,190]	[271,810]	
(1-5)アルバイト・雑費	[600,000]	[648,000]	[48,000]	
(2)英文誌関係費		794,489	794,489	
(3)コンピュータ編集	800,000	824,607	24,607	
ハ. 会員募集費	100,000	53,550	46,450	
(1)通信費	20,000	0	20,000	
(2)印刷費	80,000	53,550	26,450	
ニ. 総会費	2,150,000	1,905,542	244,458	
(1)会場費	[700,000]	[661,500]	38,500	
(2)会場備品等	[200,000]	[408,946]	208,946	
(3)懇親会費	[400,000]	[263,025]	136,975	
(4)旅費交通費	[200,000]	[]	200,000	
(5)資料作成費	[300,000]	[276,360]	23,640	
(6)広報経費	[250,000]	[209,572]	40,428	
(7)その他	[100,000]	[86,139]	13,861	
ホ. 理事会費	700,000	691,712	8,288	
ヘ. 幹事会費	600,000	70,920	529,080	
ト. 委員会関係費	650,000	558,840	91,160	
(1)委員会関係費	350,000	258,840	91,160	
(2)海外派遣費	300,000	300,000	0	
2. 事業費用	2,100,000	3,144,869	1,044,869	
(1)行事1費用	600,000	780,386	180,386	中国ワークショップ
(2)行事2費用	400,000	282,479	117,521	豊岡現地見学会
(3)行事3費用	500,000	742,970	242,970	北陸ワークショップ
(4)行事4費用	600,000	710,443	110,443	矢作川ワークショップ
(5)行事5費用		475,291	475,291	東北ワークショップ
(6)講座諸雑費	0	153,300	153,300	
3. 助成金	1,500,000	1,512,445	12,445	
(1)河川整備基金			0	
(上記支出計)	19,795,000	18,772,431	1,022,569	
4. 予備費	11,763,763	0	11,763,763	
当期支出合計	31,558,763	18,772,431	12,786,332	
当期収支差額	0	5,181,043	5,181,043	
次期繰越収支差額	0	16,944,806	16,944,806	

注) 次期繰越収支差額の内訳は次の通りである。

(単位=円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	14,429,852	17,617,117
計	14,429,852	17,617,117
未払金	2,650,231	633,901
仮受金	0	30,910
預り金	15,858	7,500
計	2,666,089	672,311
次期繰越収支差額	11,763,763	16,944,806
当期収支差額		5,181,043

(2) 正味財産増減計算書

自平成 16 年 4 月 1 日 至平成 17 年 3 月 31 日

(単位 = 円)

科 目	金 額	
. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	5,181,043	5,181,043
2. 負債減少額	0	0
増加額合計		5,181,043
. 減少の部		
1. 資産減少額	0	0
2. 負債増加額	0	0
減少額合計		0
当期正味財産増加額		5,181,043
前期繰越正味財産額		14,887,892
期末正味財産合計額		20,068,935

(3) 貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

(単位=円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	17,617,117	【流動負債】	672,311
現 金	289,376	未 払 金	633,901
普 通 預 金	3,946,732	仮 受 金	30,910
振 替 貯 金	13,381,009	預 り 金	7,500
【固定資産】	3,124,129	負債合計	672,311
什 器 ・ 備 品	765,759		
電 話 加 入 権	76,440		
商 標 権	1,281,930		
敷 金	1,000,000		
		正味財産の部	
		【正味財産】	20,068,935
		正味財産	20,068,935
		(うち正味財産増加額)	(5,181,043)
		正味財産の部合計	20,068,935
資産合計	20,741,246	負債及び資産合計	20,741,246

(4) 財産目録

(平成17年3月31日現在)

資産の部

(単位=円)

科 目	摘 要	金 額
現 金		289,376
普 通 預 金	東京三菱銀行 麹町支店	2,213,423
同	みずほ銀行 天満橋支店	366,791
同	北洋銀行 東苗穂支店	40,333
同	福岡銀行 渡辺通支店	607,213
同	UFJ銀行 柳橋支店	709,667
	普通預金計	(3,937,427)
振 替 貯 金	(東京) 00140-7-404275	13,381,009
同	(仙台) 02280-8-92496	9,305
	郵便貯金計	(13,390,314)
什 器 ・ 備 品	パソコン3台	765,759
電 話 加 入 権	事務局電話	76,440
商 標 権	商 標	1,281,930
敷 金	事務局賃貸借契約敷金	1,000,000
資 産 合 計		20,741,246

負債の部

科 目	摘 要	金 額
未 払 金	英文誌関連費代金未払額	600,000
同	事務消耗品	33,901
	未払金計	(633,901)
仮 受 金	別枠ｼｰｽﾞ講習会分	30,910
預 り 金	源泉所得税	7,500
負 債 合 計		672,311
差 引 正 味 財 産		20,068,935

(5) 応用生態工学会 平成9年度(発足)以来の決算経過総括表
 (「助成金」は、河川整備基金の助成を示す。)

		【総収入】	【総支出】	【繰越】
平成9年度(1997)	(実績)	34,503,135	17,547,014	16,956,121
平成10年度(1998)	(実績)	17,915,115	20,594,356	
	(繰越)	16,956,121		
	(計)	34,871,236	20,594,356	14,276,880
平成11年度(1999)	(実績)	26,286,276	21,259,637	
	(繰越)	14,276,880 (特)	1,579,375	
	(計)	40,563,156	22,839,012	17,724,144
平成12年度(2000)	(予算)	(一般) 20,570,000	20,079,900	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	(繰越)	17,724,144 (特)	2,000,000	
	(計)	39,794,144	23,579,900	16,214,244
(実績)	(一般)	18,929,889	20,172,797	
	(助成金)	1,500,000	1,586,178	
	(繰越)	17,724,144 (特)	1,772,777	
	(計)	38,154,033	23,531,752	14,622,281
平成13年度(2001)	(予算)	(一般) 18,640,000	18,640,000	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	(繰越)	14,622,281 (特)	2,000,000	
	(計)	34,762,281	22,140,000	12,622,281
(実績)	(一般)	18,400,748	18,288,151	
	(助成金)	1,500,000	1,581,075	
	(繰越)	14,622,281 (特)	1,546,646	
	(計)	34,523,029	21,507,852(平成14年度への繰越)	13,015,177
平成14年度(2002)	(予算)	(一般) 18,760,000	18,760,000	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	(繰越)	13,015,177 (特)	2,000,000	
	(計)	33,275,177	22,260,000	11,015,177
(実績)	(一般)	17,100,760	17,376,746	
	(助成金)	1,500,000	1,523,438	
	(繰越)	13,015,177 (特)	1,005,186 (PC購入費含む)	
	(計)	31,615,937	19,905,370(平成15年度への繰越)	11,710,567
平成15年度(2003)	(予算)	(一般) 18,498,000	18,498,000	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	(繰越)	11,710,567 (特)	2,000,000	
	(計)	31,708,567	21,998,000	9,710,567
(実績)	(一般)	19,995,851	18,419,950	
	(助成金)	1,500,000	2,021,107	
	(繰越)	11,710,567 (特)	1,001,598	
	(計)	33,206,418	21,442,655(平成16年度への繰越)	11,763,763
平成16年度(2004) - 特別予算は組まない -	(予算)	(一般) 18,295,000	18,295,000	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	(繰越)	11,763,763	0	
	(計)	31,558,763	19,795,000	11,763,763
(実績)	(一般)	22,453,474	17,259,986	
	(助成金)	1,500,000	1,512,445	
	(繰越)	11,763,763	0	
	(計)	35,717,237	18,772,431(平成17年度への繰越)	16,944,806

(6) 応用生態工学会 会誌編集費経年決算詳細内訳 2005年3月31日現在

	1997年度 (平成9年度)	1998年度 (平成10年度)	1999年度 (平成11年度)	2000年度 (平成12年度)	2001年度 (平成13年度)	2002年度 (平成14年度)	2003年度 (平成15年度)	2004年度 (平成16年度)
関連支出								
(1)会誌編集費	293,910	2,718,149	4,218,897	5,704,286	4,347,116 (増刷除)	4,954,597	5,442,271	4,246,362
巻号 (発行部数) (頁数)	無し	1巻1号 (2000部) (96頁)	2巻1号 (1700部) (130頁) 2巻2号 (1700部) (139頁)	3巻1号 (1700部) (150頁) 3巻2号 (1700部) (139頁)	4巻1号 (1700部) (106頁) 4巻2号 (1700部) (103頁)	5巻1号 (1700部) (138頁) 5巻2号 (1700部) (139頁)	6巻1号 (1800部) (122頁) 6巻2号 (1800部) (112頁)	7巻1号 (1800部) (118頁) 7巻2号 (1800部) (118頁)
(1-1)印刷費等	-	1,620,643	1,276,002	2,124,389	1,411,378	1,655,881	1,759,831	843,220
(1-2)別冊印刷費 (増刷分)	-	-	-	446,840	105,315	164,613	91,507	162,382
(1-3)郵送費	-	-	-	-	470,400 3(1)350部増刷	-	-	-
(1-4)委員会費	293,910	309,330	330,028	326,034	147,642	186,779	204,890	508,850
(1-5)事務費(印刷代等)	-	340,202	566,254	561,021	471,040	560,843	898,080	648,000
(2)ニューズレター-編集	503,215	1,181,180	965,898	1,002,736	1,153,664	827,073	781,033	824,607
No.1 (1500部)	No.3 (1500部)	No.6 (1500部)	No.11 (2200部)	No.14 (1600部)	No.18 (1800部)	No.21 (1800部)	No.25 (1800部)	No.25 (1800部)
178,605	209,130	332,645	254,230	149,456	248,214	263,032	164,285	164,285
No.2 (1500部)	No.3 増刷300部	No.7 (1500部)	No.12 (1700部)	No.15 (1800部)	No.19 (1800部)	No.22 (1800部)	No.26 (1800部)	No.26 (1800部)
324,610	24,150	206,182	516,086	207,358	305,151	243,142	253,823	253,823
No.4 (1500部)	No.4 (1500部)	No.8 (1500部)	委員名簿 同時発送	No.16 (1800部)	No.20 (1800部)	No.23 (1800部)	No.27 (1750部)	No.27 (1750部)
266,370	266,370	176,905	No.13 (1600部)	No.17 (1800部)	No.24 (1800部)	No.24 (1800部)	No.28 (1750部)	No.28 (1750部)
No.1 増刷100部	No.1 増刷100部	No.9 (1600部)	231,685	495,529	273,708	77,306	199,108	199,108
15,750	15,750	233,756					207,391	207,391
No.2 & 4 各100部増	No.2 & 4 各100部増	No.10 (2000部)						
38,850	38,850	319,480						
No.5 (1500部)	No.5 (1500部)							
292,290	292,290							
(3)会員名簿	-	-	-	974,190	-	-	890,400	-
(4)英文誌関連	-	-	-	-	-	-	-	794,489
合計	797,125	3,899,329	5,184,795	7,681,212	5,971,180	5,781,670	7,113,704	5,865,458
関連収入								
2-(1)別刷り代	-	-	-	398,595	223,444	530,550	194,380	493,200
3-(6)会誌販売	-	-	154,000	259,140	353,200	507,770	1,084,220	752,360
広告収入	-	-	-	479,370	-	-	20,000	159,475
英文誌関係								
購読料								661,500
広告収入								179,330
合計			154,000	1,137,105	576,644	1,038,320	1,298,600	2,245,865

2005 年度（平成 17 年度）事業計画

2005 年度は、2005 年 4 月 1 日から既にスタートしている。2005 年度の事業計画及び予算については、2005 年 5 月 14 日の理事会(ニュースレター No.29 で報告)および 2005 年 9 月 10 日の理事会において検討審議された。以下、2005 年度のこれまでの活動実施報告を含めて事業計画を示す。

1. 会誌の発行

8 巻 1 号(2005 年 8 月 8 日 既刊)、特集「森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生」

8 巻 2 号(2005 年 1 月発行予定)、特集「野生生物の生息適地推定と保全計画」(仮題)

以降の特集予定

・「実用を目的とした水域の生態モデルとその実用化の現状と今後の展望」(仮題)

・「河川における水際環境の構造と機能の評価」(課題)

2. ニュースレターの発行

No.29 (2005 年 5 月 20 日発行)

No.30 (2005 年 7 月 20 日発行): 第 9 回大会案内等

No.31 (2005 年 11 月発行予定): 大会報告、新役員挨拶、行事参加報告等

No.32 (2006 年 2 月発行予定): 行事参加報告、会費納入依頼等

3. ワークショップ等の開催

<方針>

普及委員会行事と限定せず、地域研究会および各委員会の積極的な活動により普及および研修の企画を立て実施する。

また、後援に関しては応用生態工学研究および普及に資する行事であれば、学会名の周知の機会でもあるので名義使用を許可し、広報等に協力する。

● 主催・共催行事

(共催) ワークショップ「河川環境目標への科学的アプローチは可能か - 考え方と実際 - 」

6/7 200 名参加 東京鈴乃屋ホール

応用生態工学会札幌「溪流・河川横断構造物の切り下げ(スリットを含む) セミナー」 7/19-20

67 名参加 北海道室蘭市・八雲町ほか オプション: 知床・標津川

(共催) 第 3 回日韓河川生態セミナー 7/19 68 名参加 名古屋大学

応用生態工学会札幌「溪流・河川横断構造物の切り下げ(スリットを含む) セミナー」 8/25

104 名参加 札幌市教育文化会館

地域の行事 第 2 回中国ワークショップ in 山口 8/26-27 160 名参加 現地および山口県セミナーパーク

.....ここまで終了

応用生態工学会編集委員会「ミニシンポジウム - 応用生態工学研究の作法 生態学と土木工学の習慣を乗り越えて」10/1 科学技術館サイエンスホール

(共催) 土砂管理とダムに関する国際シンポジウム 10/24-29 (シンポジウムは 10/25) 東京電力電気の史料館ミュージアムホール

応用生態工学会金沢 第4回北陸ワークショップ in 金沢「加賀の風土 - 水と生き物を考える」
11/11-12 現場および金沢市観光会館
交流委員会 “農業土木関係との連携をテーマに企画”
地域の行事 第3回東北ワークショップ企画

平成 18 年度

(共催) ICLEE (International Consortium of Landscape and Environmental Engineering)
による行事 ICLEE2006 International Conference on Ecological Restoration, Osaka
2006/6/16-18 大阪万博記念公園付近

● 後援行事

シンポジウム「鳥類を蘇らせる方法」 8/28 (兵庫県立人と自然の博物館)
第2回日韓合同陸水シンポジウム - 次世代のための陸水の環境教育 - 9/16-17 (大阪国際交流センター)
「第8回水源生態研究セミナー」 9/29 (東京・星陵会館)(後援)
河川生態系連続講演会「流域生態系を育む河川ネットワーク ~ “つながり”の中の河川~」
10/11~3/8 計6回 東京海洋大学楽水会館大ホール
「淡水魚保全シンポジウム岐阜大会」 11/18-19 (大垣市情報工房)

平成 18 年度

「生態モデリング国際会議 ICEM2006」 2006/8/28-9/1 (山口大学)

4. 国際交流・海外学会等への派遣(交流委員会)

2005年5月に募集を開始し、1名の応募があった。7月に交流委員会を開催し派遣の是非と助成額を検討し、下記のとおり派遣を決定した。

(派遣先) IAHR 2005(the International Association of Hydraulic Engineering and Research)
2005年9月11~16日 韓国・ソウル
(派遣研究員) 1名 渡航費として10万円を助成

5. 公開シンポジウムの開催

国際交流の一環として、2000年度を初回として実施してきた公開シンポジウムは当初の5回の予定を昨年度で終了した。

本年度は新たに「比較応用生態工学」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

開催にあたって河川整備基金を「応用生態工学の現場適用を指向する比較応用生態工学の研究」として申請し、2005年5月27日付けで、200万円の助成が決定された。

9月30日の第9回大会時に、公開シンポジウム『比較応用生態工学 - 生態系・風土そして文化』を一般公開として開催する。招聘講師は、中国香港大学デビッド・ダジョン教授である。

6. 地域での活動(普及委員会関係)

本年度は新たに下記の「地域研究会」を組織する。

「応用生態工学会金沢」、「応用生態工学会富山」、「応用生態工学会新潟」

(参考) これまで組織された地域研究会

「応用生態工学会札幌」、「応用生態工学会仙台」、「応用生態工学会東京」、「応用生態工学会名古屋」、「応用生態工学会大阪」、「応用生態工学会広島」、「応用生態工学会福岡」

平成17年度予算案

平成17年度 収支予算書

(自平成17年(2005年)4月1日 至平成18年3月31日)

(収入の部)

単位:円

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 会費収入	13,920,000	13,235,000	685,000	
(1)正会員	5,620,000	5,595,000	25,000	1124人×5,000円
(2)学生会員	200,000	140,000	60,000	100人×2,000円
(3)賛助会員	8,100,000	7,500,000	600,000	81口(53法人)×10万円
(4)賛助人会金	0	0	0	(無し)
2. 雑収入	1,422,000	460,000	962,000	
(1)会誌編集収入	280,000	300,000	20,000	別刷り等代金
(2)受取利息等	0	0	0	
(3)その他雑収入	120,000	160,000	40,000	
(4)LEE広告掲載費	140,000		140,000	半ページ(35千円*4社)
(5)LEE年間購読料	882,000		882,000	120人
3. 事業収入	4,900,000	4,600,000	300,000	
(1)行事(大会)	1,800,000	1,800,000	0	第9回大会(300名)
各地の事業計	2,400,000	2,100,000	300,000	
(2)行事1	[700,000]	[600,000]		北海道行事
(3)行事2	[200,000]	[400,000]		山口行事
(4)行事3	[500,000]	[500,000]		金沢行事
(5)行事4	[600,000]	[600,000]		名古屋行事
(6)行事5	[400,000]			東北行事
(7)会誌団体購読収入	100,000	100,000	0	10団体
(8)会誌販売	600,000	600,000	0	200冊
(9)その他事業収入	0	0	0	
4. 助成金	2,000,000	1,500,000	500,000	
河川整備基金	2,000,000	1,500,000	500,000	
本年度収入合計(A)	22,242,000	19,795,000	2,447,000	
前年度繰越収支差額	16,944,806	11,763,763	5,181,043	
収入合計(B)	39,186,806	31,558,763	7,628,043	

(支出の部)

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 管理費	17,642,000	16,195,000	1,447,000	
イ. 諸経費	5,530,000	5,895,000	365,000	
(1)家賃・水道光熱費	1,680,000	1,680,000	0	25号室約14万円
(2)リース料	460,000	360,000	100,000	約38千円/月
(3)通信費	600,000	650,000	50,000	約50千円/月
(3-1)一般電話	[100,000]	[150,000]		
(3-2)メール・HP	[150,000]	[200,000]		
(3-3)郵送・宅配等	[200,000]	[300,000]		
(3-4)IP電話	[150,000]			
(4)旅費交通費	600,000	720,000	120,000	60千円×12ヶ月
(5)文具消耗品費	600,000	800,000	200,000	50千円×12ヶ月
(6)事務局給与	900,000	900,000	0	事務局長70万円+7人1人
(7)顧問料	460,000	500,000	40,000	23.7千円×12ヶ月+22万
(8)支払手数料	30,000	50,000	20,000	
(9)図書費・会費	30,000	65,000	35,000	関連学会・団体会費を含む
(10)租税公課	70,000	70,000	0	
(11)雑費	100,000	100,000	0	
ロ. 会誌編集費	7,350,000	6,100,000	1,250,000	
(1)会誌編集費	5,480,000	5,300,000	180,000	8巻1号、8巻2号編集発行
(1-1)印刷費	[3,500,000]	[3,500,000]		
(1-2)別刷印刷費	[280,000]	[250,000]		
(1-3)郵送費	[600,000]	[450,000]		
(1-4)委員会費	[500,000]	[500,000]		校閲料・交通費等
(1-5)7人1人雑費	[600,000]	[600,000]		
(2)英文誌関係費	1,020,000		1,020,000	購読料・広告掲載費・宣伝費
(3)ニュースター編集	850,000	800,000	50,000	4号印刷発行
ハ. 会員募集費	100,000	100,000	0	
(1)通信費	20,000	20,000	0	
(2)印刷費	80,000	80,000	0	パンフレット印刷
ニ. 総会費	2,112,000	2,150,000	38,000	第9回大会
(1)会場費	[700,000]	[700,000]		
(2)会場備品等	[400,000]	[200,000]		
(3)懇親会費	[300,000]	[400,000]		
(4)旅費交通費	[100,000]	[200,000]		実行委員等
(5)資料作成費	[300,000]	[300,000]		総会・研究発表会等
(6)広報経費	[220,000]	[250,000]		ビラ・ポスター等印刷費
(7)その他	[92,000]	[100,000]		発表賞等
ホ. 理事会費	850,000	700,000	150,000	
ヘ. 幹事会費	400,000	600,000	200,000	
ト. 委員会関係費	1,300,000	650,000	650,000	
(1)委員会関係費	1,000,000	350,000	650,000	
(2)海外派遣費	300,000	300,000	0	
2. 事業費用	2,600,000	2,100,000	500,000	(原則として収入=支出)
各地行事費用	2,400,000	2,100,000	300,000	
(1)行事1費用	[700,000]	[600,000]		北海道行事
(2)行事2費用	[200,000]	[400,000]		山口行事
(3)行事3費用	[500,000]	[500,000]		金沢行事
(4)行事4費用	[600,000]	[600,000]		名古屋行事
(5)行事5費用	[400,000]		400,000	東北行事
(6)講座諸雑費	200,000	0	200,000	
3. 助成金	2,000,000	1,500,000	500,000	公開シンポジウム
(1)河川整備基金			0	
(上記支出計)	22,242,000	19,795,000	2,447,000	
4. 予備費	16,944,806	11,763,763	5,181,043	
当期支出合計	39,186,806	31,558,763	7,628,043	
当期収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	22,242,000	19,795,000	2,447,000	

規約の改正

【規約改正の主な内容】

- ・ 委員会の活動期間をより明確にするため、委員の任期を区切ることとしたい(第 17 条)。

規約

現行	改正案
<p>第 17 条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。委員会の委員は会長がこれを委嘱する。</p>	<p>第 17 条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。</p> <p>2.委員会の委員は会長がこれを委嘱する。 (追加)</p> <p>3.委員の任期は 2 年を原則とし、再任は妨げないものとする。</p>

役員改選

会長（1名）：規約第10条

「次期役員候補選考制度」に基づき候補の届出を募集したところ、1名の届出があった。

- 新会長候補者 山岸 哲（新任）（（財）山階鳥類研究所長）

副会長（3名）：規約第10条

「次期役員候補選考制度」に基づき候補の届出を募集したところ、3名の届出があった。

（50音順）

- 新副会長候補者 近藤 徹（新任）（（社）水資源協会理事長）
- 新副会長候補者 谷田 一三（留任）（大阪府立大学教授）
- 新副会長候補者 辻本 哲郎（新任）（名古屋大学教授）

理事（15名以内）：規約第11条

「次期役員候補選考制度」に基づき「候補推薦委員会」を設置し検討した。

次期理事について候補推薦委員会から下記の候補を総会に提案する。

（50音順）

- 荒井 秋晴（新任）九州歯科大学講師 発起人・専門編集委員
- 沖野 外輝夫（新任）早稲田大学特任教授 発起人
- 大矢 暁（留任）応用地質（株）相談役 前監事・現理事
- 大村 達夫（新任）東北大学教授
- 角野 康郎（新任）神戸大学教授 現幹事長
- 鹿野 久男（留任）（財）休暇村協会常務理事 現理事
- 島谷 幸宏（留任）九州大学教授 現理事・編集委員
- 竹村 公太郎（新任）（財）リバーフロント整備センター理事長
- 竹門 康弘（留任）京都大学助教授 現理事・普及委員長・前編集委員長
- 春田 章博（新任）（株）環境・グリーンエンジニア取締役
- 福岡 捷二（留任）中央大学教授 現理事
- 古川 整治（新任）応用生態工学会大阪連絡責任者 元幹事・普及委員
- 森下 郁子（留任）（社）淡水生物研究所長 現理事
- 森 誠一（新任）岐阜経済大学教授 現幹事・副編集委員長・交流委員

以上14名

幹事（15名以内）：規約第12条

次期幹事として、理事会から下記の候補を総会に推薦する。

幹事長 江崎 保男 新任 兵庫県立大学教授 元理事

幹事

- 岩崎 敬二 留任 奈良大学助教授 専門編集委員
- 内田 朝子 新任 豊田市矢作川研究所 交流委員
- 加賀谷 隆 留任 東京大学講師 専門編集委員
- 風間 ふたば 新任 山梨大学
- 鎌田 磨人 新任 徳島大学助教授 編集委員
- 萱場 祐一 新任 (独)土木研究所 交流委員
- 熊野 可文 新任 (株)建設技術研究所 元事務局長・専門編集委員
- 清水 康行 留任 北海道大学教授
- 角 哲也 新任 京都大学助教授 専門編集委員
- 関根 雅彦 新任 山口大学教授
- 高野 安二 新任 (財)ダム水源地環境整備センター
- 日置 佳之 留任 鳥取大学助教授 会誌編集委員
- 星野 義延 新任 東京農工大学助教授 専門編集委員

以上14名

監事：規約第13条

「次期役員候補選考制度」に基づき「候補推薦委員会」を設置し検討した。

次期監事について候補推薦委員会から下記の候補を総会に提案する。

- 加藤 昭 留任 (財)ダム水源地環境整備センター理事長
- 田畑 日出男 留任 国土環境(株)会長